

議事録 (No 3) 「1月 定例会」

1. 日時 2014. 1. 26
2. 場所 厚崎公民館
3. 出席者 19名+記者2名 (東京新聞・下野新聞)
(個人名は別途、受付名簿で記録・保存する)
4. 議題
 - (1) 「栃木県における放射線による健康影響に関するシンポジウム」に参加して
 - (2) そのほか
- 5 議事
 - (1) 「栃木県における放射線による健康影響に関するシンポジウム」に参加して
 - ・昨年、実際に土の表面を測ったら1万ベクレルを超えたところがあった。その「土ぼこり」を子どもたちが吸う危険性は、食品を食べることによって起こる内部被ばくに匹敵するか、それ以上ではないか、という竹原会長の質問に、県の有識者会議のメンバーから、(県のモニタリングポストの数値をもとにしか考えていないからだろう) 納得のいく回答はなかった。(計算に入れてないと思われる。)
 - ・ベラルーシでは低線量下の被爆地で「被爆2世」の8割が健康でない、というデータが公表されている。(有識者会議が「栃木県における放射線による健康影響に関する報告書」において「健康調査等は必要ない」と結論づけたことに対して) もっと長いスパンで考えるべきではないか、という意見を述べたかった。挙手をしたが時間がなく、打ち切られてしまった。
 - ・(福島県では、2011年秋から2013年9月30日まで、「福島県民健康調査」を行い、結果を報告している。それによると18歳未満の子ども216809人が第1次、エコー(超音波)を受けた。そのうち58名が悪性、または悪性の疑いで細胞診を受け、結果26名が「甲状腺がん(乳頭がん)」と確定し、手術を受けた、と報告している。那須塩原市、那須町は隣の福島県・西郷村と同じ低線量区域にある。昨年末の新聞報道には那須町・那須塩原市の幼稚園・保育園に子どもを通わせる親の8割が、放射能の子どもへの影響に不安を覚えている。というアンケート結果が公表さ

れた。「健康調査は必要ない」という有識者会議の報告は納得がいかない。という意見に対して、有識者会議の2名から次のような回答があった。

- チェルノブイリ事故当時に比べると、検査の精度は格段の進歩を遂げていて、当時は見つかった小さな甲状腺腫瘍まで見つかるようになっている。だから、チェルノブイリより多く見つかっているといつて、いちがいに比較はできない。
 - 子どもの甲状腺検査を実施すれば、今の精度でいえばかなりの子どもに甲状腺の腫瘍が見つかる可能性がある。見つかった場合、その後、定期的にCTを受けることによる放射線被ばくが考えられるし、お金もかかる。「健康調査は必要ない」と考える。
-
- **85** パーセントの親が不安に思っていることに関して、何ら答えがない。
 - 子どもに腫瘍があるかどうか、知らないほうがいい、という考え方に納得がいかない。
「知ったことによる不安」より「知らないまま放置されている不安」のほうが大きいし我慢出来るものではない。
 - これだけのことがあって今のデータを必ず残して欲しい。
放射線医療関係者が二度とあってはならないこの災害のデータを残さないでいつ残すのか。
 - 那須町とおなじ低線量地域のおとなりの西郷村でも「悪性の疑い」がひとり出ている。
 - 「健康調査は必要ない」という結論は「見直しが必要である」という意見をあげていったほうがいいのではないか。
 - ここに（「砦」の活動に）「小児科医」が加わってくれたら、と思った。
 - 福島県・平田村に子どもの「エコー検査」を無料で引き受けてくださる甲状腺専門医がおられて、実際に受けてきた方もいる。
 - 那須塩原市に「ホールボディカウンター」があるが、甲状腺の「エコー」検査もセットで受けられるように、という要望を市に出しているが、医師会が反対していると聞く。

- あえて、市民、町民に行われている定期健康診断にエコー検査を入れるよう要望したい。
- 有識者会議がWHOや韓国のデータをもとに話していることに、納得がいかない。偏ったデータをもとに結論を出している。
- 現場を知った上での発言でなければ「有識者」と言えないのではないか。
- 有識者会議の中でも意見が分かれているようだ。
- WHOの評価基準をもとに話していたが、もともとWHO基準はヨーロッパ基準に比べるとゆるい。ドキュメンタリー映画「100000年後の安全」を You Tube で見ることができる。
- WHOが放射線の健康被害に関して「白血病」と「小児甲状腺ガン」の発症を認めている。
- 今回のシンポジウム開催を知ったのが、宇都宮に住む知人から電話があり、F a x で送ってもらった。シンポジウム終了後、県の担当者（栃木県保健福祉部）に「若いお母さんたちに8割が不安に思っている、という状況の中で今回の出席状況(黒磯文化会館・小ホール 空席が目立ち、出席者に若いお母さんは見当たらなかった)を担当者としてどう見るのか。広報には載っていなかった」と抗議した。「那須塩原市と那須町には電話で知らせた」という返事だった。「県のホームページだけでなく、知らせる努力をしてほしい」と伝えると「努力する」ということだった。
- 若いお母さんの出席が少ないのは、有識者会議の「結論」は、初めからわかっている。ということでしょうか。
- 昨年、「NPO那須希望の砦」で子どもを持つお母さんに配布した「健康手帳」の回収の結果はどうなっているのだろうか。
- 事前の質問状の質問に対して全て公開回答していない。万全を期して開催されたシンポジウムと期待したが、とりあえず定例的に開催したという感じがして期待はずれ。意味が無く残念であった。
- 「質疑応答の時間」が短く、終了間際、司会者が「まだ質問のある方は挙手を」に10名近くの方が手を挙げていたが、そのまま時間切れ終了となり不満、その後のロビーでの質疑応答するとの司会者の案内にも有識者は来てもらえなかった。「震災に伴う子どもの肥満についての紹介」はいらなかった。

これらの意見があったことを県及び有識者会議に上げていく必要があるのではないか。

(2) そのほか

今後の砦の活動について。

- ・この地域の8割のお母さんが実際には不安に思っている。しかし、シンポジウム参加者に若い母親の出席は少なかった。今回のシンポジウムのような催し物を事前に幼稚園、小学校等で使われているメール伝達網を「子供のため」「不安解消」を理解してもらい父兄に伝達してもらえないだろうか。
- ・現在「スペクトルメーター」を伊王野の森宅に置かせていただいている。場所的にも離れているので適切な場所がないか心当たりがあれば、あたってほしい。

やりたいこと、やってほしいこと。

- ・ベラルーシの報告書をもとに、ベラルーシの数値と栃木の数値の比較をやりたい。(だれかやってくれないだろうか)
- ・日本はセシウムしか測っていないが、もっともって測る必要がある。

「小出先生の講演会」おしらせ

4月19日(日) 黒磯文化会館 大ホール(1450人収容) 1時

半

チラシもできている

「3.11つどい実行委員会」が進めてきている。

この実行委員会に砦の会員が2名、個人として参加しているが「那須 希望の砦」(団体)として加わるかどうか、はかっていたきたい。

(この後「団体」として加わる事が承認された)

「県」の後援を要請してはどうか、という意見がだされた。

「那須の道を美しくする100人の会」おしらせ

那須インター出口(1つ目の信号 角)の雑木林の中に会で創作した竹のオブジェ「ナスラー」が完成間近となっています。ぜひご覧ください。

だ

さい。

次回 「2月定例会」

2月23(日) 1時半～ 厚崎公民館にて

(文責 書記 三楠 紀子)